

まえがき

このたびこれまでブログで書き溜めたものを1冊の本にして発表しようということになりました。平均寿命まであと10年……自分はどのように死を迎えればよいか？ どのように人生を送り、何者になつたのか？

そのように考えることが死を迎えるにあたって意味のあることなのかどうか。

結論的にいまだ道半ばにあるものの、それがわかる者になつたということと、今後はこれから向かうとしている自分自身の「その先」を書いていこうと思つています。

あと10年というところに立つと、それまでとは価値観が変わることに気づきます。

なぜ「自分とは何か？」がわかることが大事なのかといえば、次の段階に臨むにあたり重要なプロセスになるからです。

もちろん人は個性に生きていますので、すべての人に当てはまるものでもありません。

人生は楽しければよい。また病気に罹れば諦め、不慮の事故で死ねば考える暇もない。また所属する宗教によつても死後のとらえ方も違ってきますので、すべての人が納得して同じ想いで最後に臨めるわけでもありません。

この本が共感できないという方々にとつてもお役に立てるならば幸いです。

私には人生の師と呼ぶ人物が二人います。人生の師ですから近づける対象です。

岡田茂吉（思想家であり宗教家、MOA美術館の創始者）と、イエス・キリストです。

二人は神と人とを結ぶ宗教家です。神は全宇宙の創造者ですが、人は地球上の生存できるある範囲の世界に限定されたところで、いかに生きるべきかを示します。

そしてその東洋（タテ）と西洋（ヨコ）の二種類の考えを結ぶ働きをする思想が、ニール・ドナルド・ウォルシュ著の『神との対話』シリーズです。それぞれに自分が求めた結果、最終的に『神との対話』シリーズに結集し纏まってきました。

『神との対話』シリーズには、「H E B (Highly Evolved Being): 高度に進化した存在」としての地球外生命体が出てきます。神の代理として地球を見守っている他の星の存在であり、自分的には第Ⅲのメシアという位置づけであり、その存在を実感できるところまで求めていきたいと思っています。ただH E B についての学びは、YouTube 動画などの『神との対話』シリーズに求められたほうがより理解が深まるものと思います。

ここでは二人をとともにメシアⅡ救世主として求めてきた自分の学び方を紹介しているので、タテとヨ

この役割としてその性分は違い、H E Bとは二人のメシアを求めた先に位置するものであり、個々の求め方があると思います。

彼らの思想や哲学に学ぶというより、彼らがやってきたこと成し遂げたことが自分にもできるかどうかという見本としての求め方になります。

人の人生は自分で計画したものであり、その相対であるそれを認識できないこの世という世界で生涯を送ります。つまり死をもつて、わからない世界からわかる世界に帰っていきます。

私とその二人の事績に求めていくと、「わかる世界」が開けてくるのです。つまり二人に共通していることは「生あるうちにわかることが大事である」と、わかることが難しいこの世界で人類に求めているのです。

つまり救世主が現れたということは、時代の求めに応じてそれが可能になったということになります。それがわかってくると「創造」ができるようになってきます。「神のようになれ」と、それが目的であると私は思います。

では、どうすればわかることができるのか？

それを私が経験した事実をもって提案したいと思っております。